

令和7年度学校評価シート（自己評価）

かびら幼稚園

令和8年3月

1. 園の教育目標

<p>真実の人生を精一杯生き抜こうという仏教精神に基づき、『こころと体の健康づくり』をモットーに楽しい集団生活を通して社会性を身に着け、調和のとれた人格形成を目指す。</p> <p>教育目標 1. 素直なこども（無心に手を合わせる気持ちを大切に）</p> <p>2 心の暖かいこども（お互いを認め合い、喜びも悲しみも共にする。）</p> <p>3 意欲のあるこども（初めてのことに挑戦する。自分に勝つ。正しい勇気を発揮する）</p>
--

2. 具体的な目標や計画

<p>創立以来、全園児を全職員で保育、教育を行い、園児を中心に教職員と父母、地域のボランティアの力もお借りし、本当の意味での教育的な環境を作り上げ、園児達を育ててきたかびら幼稚園を現在の社会の変化に対応し、保護者のニーズにこたえ、そして何よりも子ども達にとって必要なものを与えることができる幼稚園に進化させるための取り組みを引き続き推し進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園型認定こども園の認定として、保育が必要な家庭へのニーズに対応しつつ、そのうえで、教育面でのさらなる充実と環境面での安全性を高めていく。 ・コロナ禍を経て新たな園生活を形にしていく一年間とした昨年度を踏まえ、様々な行事や活動の意義、目的を確認し、いまの園児達に適した形で行うことを意識し、必要な変更も行いながら実践する。引き続き、日々、園児たちの体力作りにつとめ、毛呂山町川角地区に整備した自然観察園での活動も含め、園外保育を充実させる。 ・環境の変化、特に夏の長期化と暑さにたいしての対応を熱中症対策としてしっかりと行う。 ・園業務のICT化をさらに進め、園生活の安全性、保護者の利便性、そして教職員の働き方改革と働きやすい環境整備をすすめていく。毎月の避難訓練を通して、防災意識を高め、危機管理に取り組んでいく。

3. 評価項目の取り組み及び達成状況

評価項目	結果(※)	取り組み状況
昨年度に引き続き、園行事及び活動の再構築、並びに園児の活動量と運動機能強化を意識した取り組みの実施	B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のラジオ体操、ジョギングを継続し、体力づくりに努めた。ただし、実施にあたっては、天候、温度、湿度などを確認し、熱中症の危険性が高い時期は、控えるなど対応をした。 ・運動会は、昨年度に引き続き、全学年で園庭にて実施、観覧人数の制限は設けず、暑さ対策で園児、保護者の負担軽減のため午前中開催とした。進行時間の工夫を行い、無理のないスケジュールの中で、各学年、親子遊戯や親子競技を実施し、親子でのふれあいの機会も設けた。 ・安田式遊具の普段からの活用に引き続き努めた。運動会で日々の成果を鉄棒、マット、跳び箱、雲梯、平均台等を使ったサーキットとして披露した。園児一人一人個別の目標を定めて挑戦する良い機会となるが、7月にもあると園庭での遊びに暑さのため、屋外での活動に制限がかかり、また、雲梯自体が熱くなり触れることが難しい状態となるため、年間を通して、雲梯に取り組む機会を作っていく必要がある。 ・3学期初めに園での絵画造形活動の発表を作品展と題して行った。1学期、2学期に制

		<p>作した作品を展示するとともに、玄関ホールには、年間の園生活のテーマ「かびらの森」をもとに、造形遊びの一環でつくった森にちなんだ作品を飾り、「かびらの森」を作った。この展示では、完成度ではなく、構想、作業工程の中でそれぞれがテーマ、今回は、「森」をどうとらえ、どう楽しんだかに重きを置いた。また、2学期後半に3号認定児（めだか2歳児、いちが1歳児）が城西大学の学生と交流活動を行い自然に親しんだときの報告も発表した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムあそび会では、年少、年中、年長合同で2月に行った。昨年度に続き、坂戸文化会館にて行った。設備の整ったホールでの開催となり、概ね良い形で行い、昨年度の反省も生かし、運営は概ね良好であった。親子で他のクラスの発表を楽しめる形となり、親子で楽しむ時間を共有する機会をつくることができた。次年度も、設備を有効に生かせるよう工夫していく。一年前に会場の予約ができるため、計画を進めるにあたり、有益である。
稲作体験、野菜の収穫体験を含む園外活動の充実	B	<p>例年に引き続き、地主の方をはじめ地域の方々の協力を得て、坂戸市の棚田での稲作活動を行った。もみふりから始まり、田植え、稲刈り、脱穀、餅つきを体験し、食育体験を含め、一年間の活動となっている。あわせて、近くの畑でさつまいもを育て、収穫していたが、年長児が植え付けをした後、いのししが出没し、畑を荒らされてしまった。畑を柵で囲い、その後、畑はあらされなかったが、その後も周辺でのいのししの目撃情報はつづいた。さつまいもは、荒らされた影響に加え、暑さの影響もあり、残念ながら育ちが悪く、この秋のさつまいもの収量は少なかった。鳩山の有機農法の畑での大根掘りは、例年どおり行えたが、夏の暑さにより種まきの時期が遅れ気味でそのために大根の育ちも遅くなっているとのことだった。冬に卒業ハイキングと題して、山登りを年長児が行っているが、近年登っていた堂平山のルート近くで熊の目撃情報があり、山を越生の大高取山に変更した。無事に卒業ハイキングは行えたが、コース近くでも目撃情報があり、ハイキングの実施方法については、今後検討が必要と考えている。毛呂山町川角地区に自然観察園を整備し、今年度は、各学年年間を通して、数回、観察園にて活動を行った。体育講師による体育指導を行ったり、芝生広場で思い切り駆け回り、落ち葉を拾ったり、虫を探したり、各学年、園庭とは違う環境でのびのび過ごすことができた。収穫体験をはじめとする園外保育や野外での活動は、園児達の健やかな心身の発達につながるものとして大事に考えている。実施にあたっては、暑さの影響に加え、野生動物出没に対する対策も必要となり、検討していく。</p>
情報発信力の強化とICT利用の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> ・HPのブログによる園生活報告をこまめに行い、園の様子をよく伝えていたが、園HPのリニューアルに伴い、3学期からHPの更新の一時休止しているため、インスタグラムの公式アカウントにて園様子を伝えた。また、かびらだよりのICTアプリでの配信にて園の様子を伝えた。時には、画像も入れたカラーの楽しい通信となった。来年度は、HPのリニューアルの完了する見込みで、インスタグラムとHPの併用で園情報発信を強化していきたい。かびらだよりの配信もより紙面を目指していく。 ・一斉配信メールを活用し、保護者への連絡を行っているが、加えて、一斉配信メールの機能を使い、預かり保育利用の有無を集計を行うなど、利用申請も行きやすく変更した。保護者も園職員もICTアプリの利用に慣れ、両者にとって利便性向上に繋がっている。各クラスのIPADを用意し、担任がICTアプリを利用して出欠、預かり保育の利用や保護者からの連絡を職員同士で共有することで連絡ミスがへり、対応の質の向上にもつながった。おたより類の紙での配布を大幅にICTアプリでの配信に切り替えを行った。来年度は、まだ使用していないICTアプリの機能を使うべく、複数の職員でICT化をすす

		めるグループを作り、来年度に向けて準備をはじめた。
園内環境の整備、充実、活用 (安全面の施設強化)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・降ろし忘れ防止装置設置後も園バス降車後の車内点検を複数名にて実施を継続。二酸化炭素モニター、保育室内の環境整備管理に引き続き活用。オゾン消臭除菌装置を定期的で使用している。 ・熱中症対策として園庭砂場に日陰棚（屋根が透明なカーポート）を設置、夏場は、遮光ネットを張り、砂場が日陰になるようにした。 ・保育室のアップライトピアノに転倒防止のためのガードを設置。 ・園内外の監視カメラを追加設置。夏場の水遊び場となるピロティ、園庭、正面玄関、東門の出入り口、保育棟の各クラスに設置した。 ・園周辺道路への園児飛び出しや園駐車場で園児が遊ぶ行為等、事故につながる行為に対し、保護者にたいして定期的に注意喚起を行い、ぬきうちで見回りをし、声がけをした。 ・月に一回、様々な状況を想定しての避難訓練を行った。また、伝言掲示板の利用練習、引き渡し訓練など保護者にも協力を仰ぎ、行った。3学期に実際に地震が保育中にあった時も、訓練の流れにそって、混乱なく初動の動きが行うことができた。それぞれの状況下での課題をみつけ、対策を想定した訓練も行っていきたい。

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活でのICTアプリの活用に園教職員がだいぶ慣れ、その効果と有用性を認識することができてきた。それに伴い、より一層のICTアプリの有効利用を希望する声が教職員の中でも大きくなっている。それにあわせてICTアプリの活用と園のDX化を目指す教職員チームを立ち上げ、来年度に本格的な始動を目指して動き始めた。今後も園でのICTの積極的な活用をすすめ、園児の安全担保や教育保育内容の充実につながる業務の効率化に努めていく。 ・組織としてより一層課題意識をもって取り組みたい目標については、来年度引き続き取り組んでいく。 ・ポストコロナでの新たな園行事や活動を形作った一年。以前の園生活の中での行事や参観などでの親子の触れ合いの機会も大事にしていたが、コロナ禍で多くが制限する形になっていた。今年度、園行事や活動の中での親子の触れ合いの機会を復活したことは、意義深く、今後も続けていきたい。認定こども園として保育園的機能も充実していく中で、両親ともに就労されている家庭も多くなっているが、幼児期の親子のかかわり、ふれあいは、重要であり、園生活の中に親子で一緒に何かに取り組み、楽しむ機会を作っていきたい。 ・体力作りについては、日々の積みかさねで培っていくものでもあるので引き続き朝のラジオ体操やジョギングを行い、また園庭や自然観察園にて思い切り体を動かす楽しさを満喫できるようにしたい。安田式遊具の日々の活動での活用と運動会での種目に取り入れることでふだんの園での取り組みを発表できるはよかった。クラス、学年の仲間と協力してつくりあげる鼓笛隊やバルーンの種目とともに、園児それぞれが鼓笛や雲梯で何をどこまで頑張るか目標を設定しそれに向けて頑張ることで意欲的になる姿があり、担任や他の教職員が一人一人に向き合う機会となった。集団としてのダイナミズムを生かすとともに、いかに園児一人一人に意識を向けていくことができるかとこれからも保育の課題としていく必要があると考える。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
ICT化の推進と情報発信の強化	現在、使用しているICTアプリの活用をより一層進めていく。現在使用していない機能も導入し、ペーパーレス化や申請等をアプリで行うよう活用をすすめる中で保護者の利便性をたかめ、業務の効率化につなげていく。ひいては、保育の質の向上に寄与するよう努める。園開放や未就園児向けのイベント等を通して多くの親子にかびら幼稚園を知ってもらう機会とするとともに子育てについての相談を気軽にできる場としても地域の子育て世代の一助となれるよう努める。保護者への情報発信ツールであるとともに、広報過活動の主体としてHPやSNSを上手く活用し、情報を更新していく。
安全管理	引き続き、通園バスの安全な運行管理に努める。また、安全な園内の環境整備を行うための点検等について見直しを行う。園周辺道路及び園駐車場で危険行為防止の啓蒙、注意喚起を繰り返し行っていく。様々な状況を想定しての避難訓練を行っていく。計画作成にあたり、想定する状況下での課題、園児の動き、教職員の動き等を踏まえた内容にし、実施後、振り返りを行う。 園内外での熱中症対策、並びに感染症対策を引き続き行っていく。 園外保育での安全管理につとめ、また、園外での活動を計画にするにあたり、実施場所や実施方法を検討し、行事や活動の意義を大切にしながら、安全な実施の形を模索する。
保育・教育の質の向上のための取り組み	定期的な保育の振り返りや研修を通して不適切保育や虐待等に対する勉強を継続し、教職員間で不適切保育に対する認識を共有し、それらに繋がるような行為を未然に防ぐことに努める。小学校への接続を意識した教育カリキュラムの工夫と実践のため地域の小学校との連携をより深めていく。園の活動や行事、教育内容についての意義、意図への理解を深めあう機会を設けるとともに働き方改革を進める中で教職員のモチベーションを向上させ、保育の質の向上につなげる。園の様々な行事や活動は、教職員だけでは行えないものが多く、開園以来、保護者の方々にも多く協力いただいていた。行事等にかかわっていただくことで、保護者の方々にも園の方針やねらい、努力や工夫をより身近に感じ、理解していただくことにもつながるため、これからも保護者の協力を得ながら、園の保育教育の質を高めていきたい。

○結果について

A	十分達成されている
B	ある程度、達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分ではない。より一層の取り組みが期待される
D	取り組みが不十分である

かびら幼稚園

学校関係者評価委員会

日時：令和8年3月2日ほか

公開保育の後、学校評価を実施

出席者 評価委員（保護者）2人

評価委員（地域住民）1人

評価委員（他の施設の職員）2人

1. 自己評価で設定した目標・計画・評価項目の設定は適切であったか。

少子化が進む中で、時代にもとめられる幼稚園として様々な工夫や対応が必要であり、それらを形にするために目標や計画は適切である。

園をとりまく環境の変化、特に近年の気候の変化は顕著であり、猛暑ならびに長期化における熱中症対策は、かかせないものである。様々な工夫をされているが、引き続き、園児の健康管理、安全管理につとめてもらいたい。また、そのような状況下においての保育の難しさがあると思われるが、真摯に対応しようとする姿勢はありがたい。

ICTを園に導入していくことで、保護者や保育者の利便性の向上、情報の共有、記録の効率化が図れることは、良いことと思われる。園業務のICT化が、教職員の業務の効率化につながり、負担軽減になることで、しっかりと園児達を向き合う保育をさらに進めていってほしい。

昨今の保育教育にかかわる課題について研修等を行っていくことは、必要なことであり、常に新しい知識や情報を得ることができるよう、継続的に行ってってもらいたい。

園の行事や活動も継続性の大切さがあると思う。体力づくりのための日々のラジオ体操やジョギングは続けていてもらいたい。園の行事や活動の中で、親子のふれあいの機会を設けてもらえることは、ありがたい。また、保護者が行事のお手伝い等に参加することで、普段はみられない園の様子をすることができたり、教職員の方々が日々工夫して保育を行っていることをすることができ有意義だった。多くの保護者の方々にも関わってってもらえるよう続けてもらいたい。

2. 評価の内容は、適切であったか

概ね適切である。取り組んでいく中でみえてきた課題や問題点に対して、対応を考え、改善していくことが必要と考えての評価であると理解する。

3. 今後とりくむべき課題は適切に設定されているか

今年度の取り組みの評価反省から、引き続き取り組むべきことが提示され、また、あらたな課題についても、適切な内容であるとする。どの課題についても、幼稚園運営において、継続的に取り組んでいく必要のあることであり、これからもしっかりと取り組んでいてもらいたい。

4. 公開保育に参加して

園児達がいきいきとしている様子が微笑ましく、園生活が楽しく充実していることと思われる。教職員間での連携がよくとれている印象があり、園児たちのために創意工夫に取り組む姿に深く感謝する。こども達を取り巻く環境は、厳しいものであり、もとめられるものが多くたいへんだが、これからも、園児たちの健やかな成長のため頑張っていたきたい。